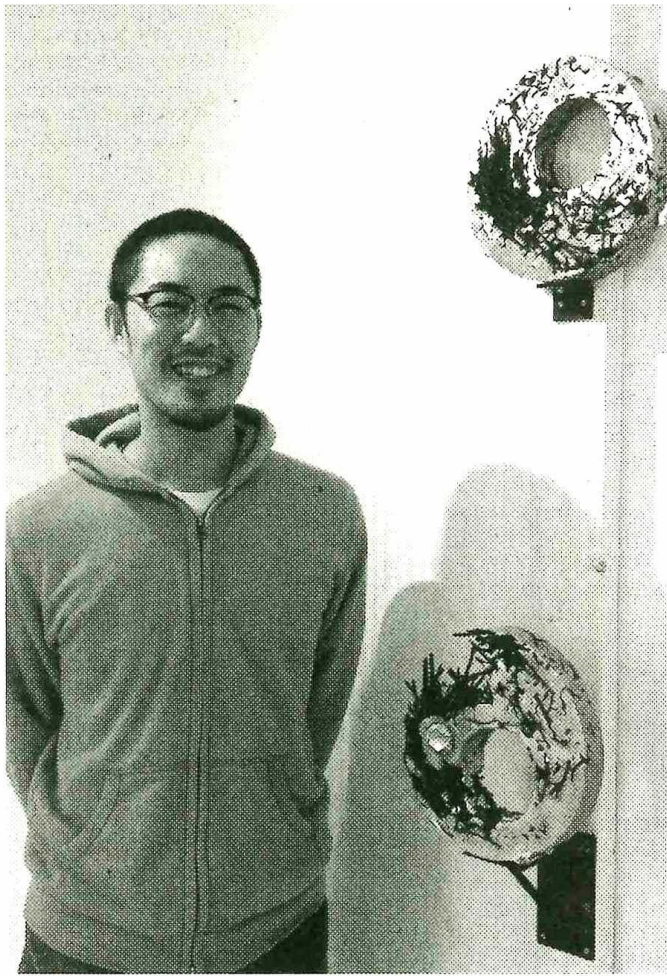


道展佳作作品を披露



展示されている彫刻作品の一部と坂本さん

■室蘭2月1日(金)まで 室蘭市在住の彫刻家・坂本正太郎さん(38)の作品展が、市内知利別町の製鉄記念室蘭病院ギャラリーで開かれている。ブロンズや鉄、アルミによる感性豊かな作品が8点並び、来院者の目を楽しませている。

坂本さんは昨年、セミをモチーフにした彫刻「カナカナ」が、道内最大規模の美術公募展「第93回道展」で佳作賞を受賞した。

展示会場では「カナカナ」

を披露。胴体はブロンズ、羽は銅線、台座は鉄で作られ、铸造やろう付け、溶接の技術を生かした。セミ自体の大きさは30センチ余り。特徴をよく観察した精巧な仕上げがりがだが、足を付けないなどデフォルメした。

アルミサッシを溶かし、使い古したくぎと一緒に铸造したエコな作品もある。太陽と月をイメージして丸くかたどられ、シルバーとむき出しの鉄さびの色合いが味わい深い。